北本市議会議員 岡村ありまさ 活動報告

* Imagine *

『ひと』と『まち』が元気に、地域力UP!



- 令和5年第1回定例会が2月20日から3月17日までの26日間の日程で開催され、市長提出 議案25件、報告1件、請願1件、議員提出議案1件、委員会提出議案3件、議員提出議案1件 を審査しました。主なものは次のとおりです。
- 令和5年度一般会計予算ならびに5つの特別会計予算と公共下水道事業会計を原案可決しました。

会計別予算総括表 (単位:千円、%)

会計名		令和5年度	令和4年度	比較	増減率	令和4年度 増 減 率
一般会計		23, 465, 000	22, 326, 410	1, 138, 590	5. 1	3. 9
特別会計	後期高齢者医療特別会計	1, 145, 800	1, 105, 000	40, 800	3. 7	14. 2
	久保特定土地区画整理事 業特別会計	671, 200	538, 700	132, 500	24. 6	5. 6
	国民健康保険特別会計	6, 358, 600	6, 352, 400	6, 200	0. 1	▲ 3. 4
	介護保険特別会計	5, 883, 400	5, 581, 200	302, 200	5. 4	3. 5
	埼玉県央広域公平委員会 特別会計	480	528	▲ 48	▲ 9. 1	▲ 1.3
	小 計	14, 059, 480	13, 577, 828	481, 652	3. 5	1. 1
公共	下水道事業会計	1, 789, 157	1, 753, 652	35, 505	2. 0	1. 6
合 計		39, 313, 637	37, 657, 890	1, 655, 747	4. 4	2. 8

- 令和5年度一般会計予算は、歳入歳出予算総額がそれぞれ234億6,500万円、令和4年度と比較して11億3,859万円、5.1%増となりました。歳入では、市税88億3,912万円(令和4年度より2億6,928万円、3.1%増)、国・県支出金52億7,912万円(令和4年度より2億6,775万円、5.3%増)、地方交付税28億6,900万円(令和4年度より3億100万円、11.7%増)地方消費税交付金15億円(令和4年度より1億2,200万円、8.9%増)、市債11億9,450万円(令和4年度より1億5,330万円、11.4%減)と見込まれています。
 - なお、歳出は第5次北本市総合振興計画の7つの政策に基づき予算編成がなされています。
 - また、今回の定例会では、令和4年度一般会計補正予算(第8号、第9号)も審議され、原案通り可決されました。その主なものや新規事業については以下のとおりです。
 - ① コロナ禍での物価高騰等に直面する児童生徒の保護者負担の軽減のため、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、市内小中学校に通う児童生徒の令和5年4月から6ヵ月分の給食費相当額を学校会計に交付します。6ヵ月間の給食費が実質的に無償化となります。
 - ② 国の創設した「出産・子育て応援交付金」を活用して、妊娠期から出産子育てまでの軽減を図るため、令和4年4月1日以降妊娠届提出または出生した子どもの養育者に「伴走型相談支援」と「経済的支援」(妊娠時5万円分の電子ギフト、出生届時5万円分の電子ギフトを送付)を実施します。
 - ③ 通学路の安全確保のため、事故発生リスクをAIで予測サービスを導入し、合理的根拠に基づい

- た通学路の点検や交通安全対策の見直し等に活用されます。
- ④ 旧栄小学校の校舎を活用した「北本市栄市民活動交流センター」(令和6年度中にオープン予定)の整備に着手します。その整備改装工事費として5億5,017万円が予算化されました。
- ⑤ 老朽化した6つの公民館等の空調機器について、省エネ性能の高い機種をサブスクリプション方式 (15年リース) で導入することになりました。これにより、初期費用の圧縮、ランニングコストの削減や今後の更新が可能になります。
- ⑥ 行政DXの一環として、転出・転入・転居での異動届等の自動入力システム(書かない窓口)が 令和6年1月頃から導入されます。これにより、待ち時間等の短縮が図られます。
- ⑦ 令和5年3月で中央通線の事業化区間の整備完了することから、昨年12月の定例会であずま通りから国道17号までの未施工区間について早期事業化の請願が採択されましたが、整備に向けて進めていくための調査(調査費用1,000万円の予算化)に着手することになりました。
- ⑧ 本市では昨年1月に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しましたが、令和5年度予算で住宅用省エネルギー機器設置、省エネ家電買い替えや電気自動車等購入費の補助金を交付することになりました。他の自治体の事業を参考にしたものですが、2030年度の目標達成に向けての地球温暖化策としては疑問が残るところですし、気象変動に対する緩和策も実施していくことが重要と思います。

● 令和5年第1回定例会で行った一般質問について

1. 孤独・孤立対策について

我が国は少子高齢化と人口減少の社会であり、また雇用環境の変化、ICT等の進展による生活やライフスタイルが変化し、核家族化、未婚・晩婚化により単身世帯の増加、社会環境も大きく変わり、地縁や血縁といった関係性やつながりが希薄化し、さらにコロナ禍で高齢者だけでなく、20~30代の若い世代も、外出もできず、経済状態も悪く、収入も得られない、ひっそりと孤立・孤独の中で、不安や悩みを抱え、自殺者も増えて令和2年は21,188人となりました。外出できず自宅で過ごす時間が増加し、虐待、DV、不登校児童生徒の増加など深刻な状況となったこと言われています。

そのような状況の中で、令和3年2月に、政府は内閣官房に「孤独・孤立問題の対策室」を設置し、令和3年12月には「孤独・孤立対策の重点計画」を策定しました。そして、昨年12月には「孤独・孤立対策の重点計画」の改定を行い、通常国会に「孤独・孤立対策推進法案」が提出されました。

孤独・孤立の状態は、人生のあらゆる段階で、何人にも生じるもので、社会のあらゆる分野で孤独・ 孤立対策の推進を図り、孤独・孤立にある者とその家族の立場に立って支援がされることが必要です。

孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会、相互に支えあう、人と人との「つながり」が生まれる社会を目指していくことが重要であると思います。

本市では、福祉総合窓口を始めとする重層的支援体制を整備拡充し、支援に繋がっていない世帯等に働きかけ、関係性を作るためアウトリーチ等を通じた支援事業も孤独・孤立対策に有用と考えており、 県の官民連携プラットフォームとの連携の調査研究、自殺対策推進計画策定も進めるとの答弁でした。

2 歩道と視聴覚障害者用誘導ブロックの設置の現状について

本市おける歩道ならびに視覚障害者用誘導ブロックの設置基準や設置状況とともに、視覚障がい者が 横断歩道を渡る際に、安心安全に真っすぐに反対側に渡れるように誘導ブロックが設置された横断歩道 (エスコートゾーン)が何故本市にはないのか質したところ、それは本来警察が整備するものですが、 視覚障がい者の利用が見込まれる横断歩道へ整備に向けて警察に要望等行いたいとの答弁でした。

市民の皆様のご意見等をいただきますようお願い申し上げます。 北本市議会議員 岡村有正

〒364-0006 北本市北本3-178-3

電話/FAX 048-591-4456

携帯 0 9 0 - 1 7 0 4 - 1 6 2 3 e-mail:a.okamura5582@gmail.com

